

(2) 期日・場所

- ① 期 日 昭和52年11月11日
- ② 場 所 郡山市立中央公民館
- ③ テーマ ○福島県の教育に望む
  - ・学校教育について
  - ・社会教育について
  - 大学入試の改善に望む（文部省主題）

- ④ 出席者（モニター番号順）
 

郡山女子大学副学長	関口 正
福島民友新聞社取締役県南担当 （兼）郡山支社長	伊藤 二郎
福島大学教育学部教授 （併）附属中学校長	針木 勝衛
福島民報社郡山支社長	佐藤 謙寿
マルキ自動車株式会社代表取締役	渡辺 信雄
福島大学教育学部教授	新田 勝彦
福島県教育庁教育次長	小島 哲
同 総務課長	佐藤 昌志
同 義務教育課長	埜 保貞
同 高等学校教育課長代理	小松原 格
同 社会教育課長	佐藤利三郎
同 総務課主幹	若杉 栄
同 県中教育事務所長	添田 信一
その他教育庁事務担当者	

(3) 内 容

懇談会の内容は、広報誌「教育福島」12月号に特集として掲載し、小・中・県立学校、教育関係機関に配布した。  
(3,000部)

## 11 市町村教育委員会広報連絡協議会

(1) 昭和52年度東北地区市町村教育委員会広報連絡協議会

- ① 趣 旨  
教育施策の普及徹底を図るため、教育委員会における広報活動について、効果的な推進方法を研究協議し、併せて情報交換を行い、教育行政広報の充実に資する。
- ② 主 催 文部省・福島県教育委員会
- ③ 期 日 昭和52年10月25日(火)・26日(水)
- ④ 場 所 会津若松市立会津図書館
- ⑤ 内 容

(第1日)

- あいさつ
 

文部省大臣官房総務課広報室長	守屋 尚
福島県教育委員会教育長	辺見栄之助
- 講 義  
「文部行政の当面する課題」  
文部省大臣官房総務課広報室長 守屋 尚
- 講 演  
「現代社会の中の教育行政広報」  
社団法人日本新聞協会研究所長 高須 正郎

- 1 はじめに  
現代社会における教育の変化

- 2 現代社会の特性
  - a 70年代は変化の時代
  - b 情報化時代
- 3 変化に対応する行政へ
  - a まず実態をよく調べる
  - b 当事者、専門家の意見をきく
  - c 柔軟に対応する
- 4 教育行政広報の見直し
  - a 広報の機能を見直す
  - b 受け手から出発する広報へ
  - c マスから個へ
- 5 おわりに  
教育とマス・メディアとの協力

(第2日)

- 第1分科会（初心者向け）  
実務講座「行政広報の実際」  
福島県生活環境部広報広聴課課長補佐 阿曾 寿一
- 1 広報とは  
広報のあゆみ P R 活動 広報の必要性
- 2 広報媒体（メディア）  
人間媒体 印刷媒体 電波媒体 映像媒体 その他の媒体
- 3 広報企画  
企画のよしあしが勝負 よい企画をたてるには
- 4 広報紙（誌）づくりの基本  
印刷の知識（印刷・活字・用紙・原稿・紙面構成・記事の配列・見出し・写真・カット）
- 5 むすび

- 第2分科会（経験者向け）  
実務講座「読みやすく親しみやすい広報紙づくり」  
社団法人日本新聞協会研究所長 高須 正郎

- 1 だれのための広報紙か
  - a 送り手本位から受け手本位へ
  - b 情報性を高める
  - c 広報紙づくりの専門家になる
- 2 取材と記事の書き方
  - a 取材の心得と効率化
  - b 報道文の特徴
  - c 読みやすさの条件
- 3 親しみやすい紙面づくり
  - 2 紙面づくりの基本から出発する
  - b 見出しの役割
  - c 紙面づくりの要点
  - d 視覚に訴える

- 情報交換
- 閉会・あいさつ  
各分科会ごとに、文部省担当官及び分科会責任者

(2) 参 加 者

東北6県の教育委員会関係者並びに市町村教育委員会関係者62名が出席した。